



第 36 期(後期)教職員評議員選挙 慶應労組四谷支部は **金井 望**さんの 推薦を決定

3期目を
目指します!

慶應義塾の運営方針や予算を決める最高決定機関である「評議員会」に職員の代表として金井望さん(医療連携推進部看護師)を推薦することを決定しました。選挙は10月に行われる予定です。皆様の応援をよろしくお願いいたします。



申請はまだ? ベースアップ評価料! これからの回答に期待

日経メディカルは「2024年度に看護師、薬剤師などベースアップ評価料の対象職員の賃上げを92.5%が行ったと回答した。今回、診療報酬改定で新設されたベースアップ評価料は、6月以降集計の結果、8月6日調査で82大学病院(本院)中、73大学病院が算定しており、算定していないのは慶應義塾大学病院など9病院だった。賃上げの実施内容をこれから決める施設もあると見られ、今後はさらに算定病院が増加していく可能性がある。」と発表しました。

春闘の中で当局は「診療報酬全体を精査している。」「総合大学なので対応がむずかしい。」など「検討中」であることを繰り返し回答しています。国が制度をつくったにも関わらず慶應はなぜ申請・活用しないのでしょうか。早急に検討を終え職員の給与に反映することを求めます。

始業前の情報収集は「業務」です



春闘で始業前業務について、具体的な改善策を組合から提示しましたが、当局は師長会で具体策を検討すると回答したまま、具体的な改善はされていません。

情報収集は業務であり、始業前から情報収集をした時は時間外労働として申請してよいことを改めて確認しています。ナーススケジューラーから「情報収集」を選択し、始業前の業務時間として申請しましょう。申請圧力があつた場合、組合までお知らせください。



特定機能病院 高度医療を行う大学病院での 専門職は専任で雇用を！

この春闘の中で組合は眼科視能訓練士の専任職員の比率が極端に低く、診療にも支障をきたしていることを取り上げました。眼科に限らず、コメディカルの多くの職場で新入職員は非専任としての雇用のため支障をきたしていることは団体交渉で伝えていきます。松本病院長は、「質が保てないことは認識をしている」と回答はするものの改善はありません。

病院長の7月職場ラウンド時に、別の職場のスタッフが「専門職でありながら新入職員が専任でないことで、折角、育っても辞めてしまい質が保てない。」と困っていることを伝えたところ、「(この職場では)初めて聞きました。様々な年代がいられるよう調整します。」との返答でした。高度医療を行うとうたうならば早急に改善していただきたいと思います。

医療チームの一員、ナースアシスタントも不足



病棟のナースアシスタント(NA)は、現在ほとんどが嘱託職員です。最長5年で雇用契約が終了するため、応募人数も少なく、配属されても業務量の多さと不安定な未来のために、多くの方が契約満了を待たずに辞めてしまいます。その結果、病棟では日々欠員状態。そんな職場では働き続けるモチベーションもなくなってしまいます。NAの人数が減ることで、その業務を看護師が代行することも多く、他職種へのしわ寄せも増えています。

NAも医療チームの一員としてやりがいのある職種とし、専任化することが、慶應病院の医療・看護の質向上につながると組合は考えています。



暑さを吹き飛ばす会

8月22日(木) 17:30~20:00 組合事務所

暑い夏を乗りきりましょう！ 組合員 500円



労働組合加入届

※組合へは専任・非専任問わず、加入できます。組合への加入をご希望の方は、下記にご記入後、切り取り、慶應義塾労働組合四谷支部まで塾内便にてご送付ください。(組合紹介パンフを希望の方は、k-yotsuya@keio-union.or.jpにご連絡ください)。

フリガナ

記入日：20 年 月 日

職員番号：

職場名：

氏名

生年月日： 年 月 日

職員・看護師(いずれかに○を)

メールアドレス



こちらからも
加入できます